

令和5年度第1回長野市社会福祉審議会児童福祉専門分科会
 (長野市版子ども・子育て会議)
 会議要旨

- 開催日時 令和5年5月30日(火) 午後3時から午後4時30分まで
- 開催場所 長野市中部公民館 4階ホール
- 出席委員 水口委員、茅野委員、渡邊委員、塚田委員、石田委員、野澤委員、飯島委員、
宮下委員、中島委員、重野委員、西脇委員、田中(亜)委員、中村委員、松
田委員
- 欠席委員 塚原委員、和田委員、田中(宗)委員
- 事務局出席者 島田こども未来部長、伊東こども政策課長、宮下子育て家庭福祉課長、丸山
保育・幼稚園課長、吉澤こども総合支援センター所長ほか
- 傍聴者 なし
- 報道機関 なし

発言者	内容
	1 開会
こども未来部長	2 こども未来部長挨拶
	3 委嘱書交付
	4 委員紹介
	5 事務局自己紹介
	6 会長及び副会長選出 委員の互選により、会長に水口崇委員を、副会長に石田三千夫委員を選出
事務局	7 議事 (1) 長野市社会福祉審議会児童福祉専門分科会及び長野市版子ども・子育て会 議について 資料1に基づき説明 《質疑応答》 なし
事務局	(2) 令和6年度 長野市の保育所等保育料(利用者負担)について 資料2、2-1に基づき説明

発言者	内容
会長	<p>《質疑応答》 なし</p> <p>本件については、今後の分科会で審議していくので、事務局は国の基準の改定等を踏まえた検討をお願いしたい。</p>
事務局	<p>(3) 第三期長野市子ども・子育て支援事業計画の策定について</p> <p>資料3-1、3-2（概要版）、3-3に基づき説明</p>
委員	<p>《質疑応答》</p> <p>資料3-3中間年の見直しの5ページにこども総合支援センターのことが書かれている。こども総合支援センターは市長の公約で実現したセンターで、当然この計画にも今後盛り込まれていくことと承知している。保育協会としても、色々な機関を有機的に繋げる役割を果たしていただく、ということを楽しんでいる。機能していくには課題がたくさんあると思うが、現状と今後の課題についてのご説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>まず、こども総合支援センターの令和4年度の実績をお話させていただく。昨年度は1年間で相談を1,203件いただいた。そのうちの約9割が電話でのご相談。1,203件のうち、他機関に情報提供・情報共有・連携支援を行ったものが367件で、全相談のうち約3割となっている。</p> <p>相談内容で1番多かったものが「育児全般」、多い順に「発達」、「学校」、「不登校」、「家族」となっている。</p> <p>相談対象者については、小学生・中学生に関する相談が約半数を占める。</p> <p>相談者の内訳は、保護者が983件で、全相談の約8割になる。それ以外には、保護者以外の家族が49件、関係機関が69件、こども本人からの相談が7件となっている。</p> <p>母からの相談が圧倒的に多いが、子育てに不安や孤独を感じている方が、悩みを受け止めてくれる場所を求めていると感じられる相談も多い。虐待、いじめ、自殺のほめかし、リストカット等深刻な相談については、迅速に関係機関に繋いで、すぐに動いていただくよう調整を行っている。</p> <p>こども本人からの相談が少ないというのが1番課題として感じている。小中学生には一人一台タブレットが配布されていて、今年度から匿名でもできる相談機能があり、相談ボタンから色々な相談ができる仕組みになっている。その集計もこども総合支援センターであるようになった。指導主事が2名、学校教育課併任の指導主事も2名いるため、学校関係との連携強化を図っていききたいし、こどもからの声もしっかり受け止めていきたい。外に出てこどもの声を拾っていくことも必要だと考えているところ。皆さんからもご提案いただきながら、できるところから前に進んでいきたいので、引き続きご協力をお願いしたい。</p>

発言者	内容
委員	<p>ニーズ調査について、色々な質問項目があるが、あのえっととの関わりの質問項目が1つほしいことと、「子育てで選ばれる長野市になるには」市民から積極的にアイデアを書いていただく項目を作っていたいただければありがたいと思う。</p> <p>全員が長野市の子育てに興味を持って、長野市民が全体で子どもたちを支えていくという観点から見ると、ただ子育てに従事している人と市とでやっている、ではなく、もっと包括的な子どもをめぐっての社会、地域の子どもたちは自分の子どもという観点の上に立ったニーズ調査がほしい。</p>
事務局	<p>今までの計画の中で、その質問に対してどういう傾向があるかを見ていく質問もあった。ただ、今後、子ども基本法を踏まえた意見の聞き方ということについては、新たに考える必要があると考えており、そのところはご意見を踏まえて慎重に考えてまいりたい。</p>
委員	<p>ニーズ調査について教えていただきたい。第二期長野市子ども・子育て支援事業計画の10ページ「子どもをみてもらえる親族・知人の有無」について「いずれもない」という方が10%いらっしゃる。こういった調査も長野市が今設置しているサポートの認知度や、それを必要に応じて活用しているのか、していないのか、いないとすれば、なぜできないのかということまで踏み込んだ調査ができれば、次の計画に活かせると思う。</p> <p>更に、12ページでは、子育ての負担感が強い人がどんな悩みを抱えているのか分析されているが、個人的には、子育てが楽しくない、まったく楽しくない、あまり楽しくないという感覚で子育てされている方のリスクはすごく高いと思っている。負担感の強さの分析ももちろん重要でありながら、まったく楽しいと思えない人たちが、どのような点で負担が大きかったかという見方をしていきたい。分析方法まで調査段階から考えながら進めていきたいと思った。次回の分科会では、細かい調査項目や、現在担当の方で検討されている分析のデータの見方、どんな風に考えているのかも含めてご提案いただけたらありがたい。</p> <p>あのえっとについて教えていただきたい。1,203件のうち、延べ数ではなく相談者数はどれぐらいか。現段階で継続的に対応しているケースはどれぐらいあるのか。他機関に繋いだ後のフォローアップ体制はどうなっているのか。</p>
事務局	<p>調査項目については、分析できるということも着眼点として必要な部分ではあると思う。ただ不安の数を捉えるということ、保育所のニーズを捉えること、だけではなくて、それに対応する施策を生み出すための調査、という視点を持って今後また検討していきたい。</p>
事務局	<p>1,203件は相談の総数。この中で、お名前をお聞きできる相談も、匿名の相談もある。お名前をお聞きしないと何の支援もできないため、お聞きするように努めてはいるが、「匿名でお願いします」という相談者も多い。そのた</p>

発言者	内容
委員	<p>め、実質何人というお答えはできない状況。「とにかく傾聴してほしい」というようなお電話も多い。</p> <p>まだ十分にできていないが、フォローアップ電話というか、気になるご相談について、一か月後、三か月後、六か月後などのタイミングで、様子を聞かせていただけますか？という対応をしていきたいと考えている。</p> <p>伴走してほしいというご希望をいただくが、あのえっとはケースワーカーがおらず、長期的にご相談者に寄り添って走り続けることができない。きちんと繋いで、繋ぎ先でしっかり対応していただいて、その経過を見守っていったり報告をしてもらったりということで、きちんとしたフォローができるように努めているが、やっぱりその辺りが課題になっていくのかなというところ。</p> <p>伴走するにも資源が必要で大変ということだが、先ほどの、子ども本人からの相談を拾い上げていきたいという部分も、教育委員会との連携の中でタブレットの相談機能に期待するところ。いじめや不登校に至ってしまうような悩みの一歩の発見ツールはアンケート。タブレットを使って、相談できる場所をどんどん連携していきながら拾い上げて、対応できるようなことを実現できる形を整えていけたらと思った。</p>
委員	<p>ケースワーカーを今後付けていくことはできないか。予算的に難しいのか。ケースワーカーを付ければもう少し充実したものになる気がするがいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>まずはワンストップで拾い上げる、そこに漏れがないように色々な機関に繋ぐというところを目的にしてあのえっとを開設をさせていただいている。確かにケースワーカーを付けて、伴走して、支援に繋げていくことも、気持ちとしては必要だと思うものの、まずは、ダイレクトにすぐ色々な機関に繋ぐということ軌道に乗せてから、その先のことはまた考えていきたいと思っている。ご意見は承りつつも、今後視野に入れていきたい。</p>
委員	<p>こどもたちの声を拾い上げるというところで、今長野でチャイルドラインが活発にやってらっしゃって、そういう人たちとの連携はあるのか。色々なところに親の会ができていますが、支援センターから親の会に繋げるということではできているのか。</p>
事務局	<p>不登校などのご相談をいただいた時は、親の会の他、フリースクールなど色々な支援をできる限りご紹介している。2年目になって相談件数も増えているような状況で、もう少しお時間をいただいて調整したい。関係の皆様とお話をさせていただきながら、模索していきたい。</p>
委員	<p>支援センターで声を聴いて、必要なところに繋いでくれるのを期待している。</p>

発言者	内容
事務局	<p>発達障害、不登校、色々な段階の親の会ができています。親御さんは孤独になって子育てしている方が多いので、経験者の親の会の人たちに繋げてほしい。</p> <p>アンテナを高く張って、どういうところがあるのかというところもお伝えできるようにしていきたい。</p>
委員	<p>ニーズ調査について伺いたい。未就学児の保護者4,000人と小学校低学年の保護者2,000人を対象としているということだが、私も子どもが未就学児と小学校低学年で、周りのお母さんからは様々な意見を聞く。もっとこうしてほしいとか、ここが困っているとかが多いが、アンケートの回収率が58%で約半数しか回答がないことに驚いた。直接ランダムに郵送をして保護者の方たちをお願いしたということか。令和5年に実施する予定のアンケートも同じ方式で取る予定か。</p>
事務局	<p>前は、ランダムに長野市全員から抽出した方たちを対象にするという通常の市民アンケートと同じ形式で抽出をし、直接郵送をしてご返答をいただいた。</p> <p>令和5年度については、必ずしも郵送に拘る必要は無いと考えている。その方法についてもこれから検討してまいりたい。</p> <p>回答率については、数字を見るとやはり低いと思うが、色々なアンケートを見ると回答率は比較的高い方かなという印象もある。ただ、できる限りご回答いただくような形をお願いをしてまいりたい。</p>
委員	<p>グーグルフォームなど、簡単にアンケートが取れる方法で、更にオープン形式な、「もう少しこうしてほしい」というところを加えていただくと、回答率も伸びるかと思う。是非ご検討をお願いしたい。</p>
委員	<p>8 その他</p> <p>不登校の親の会の資料を配布したい。ブルースカイは、33年前に児童相談所にあった親の会から経験者のお母さんたちで立ち上げて、今も活動している。お母さんたちは孤独になっていて、三十数年前と変わらない悩みで来ている。経験者の声というのは、親にとっては助かりますので、親の会とも繋がって、サポートしていただけたらありがたい。</p>
事務局	<p>不登校の会は昔から存じ上げている。民間で色々な団体が行き組みをされていますので、これから支援に繋げていくような時には、ブルースカイさんを始め、色々な団体とも手を繋いでいく必要がありますので、一緒になってよろしくお願ひしたい。</p>
	<p>9 閉会</p>